

## 銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎



## 3月のアルミ概況及び4月の見通し (3)

## 【住宅】

住宅着工の動向については、前年同月比で3か月連続の増加となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、分譲住宅は増、貸家は減となった。

引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

## 【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比-3.4%、15万7,092 t、14か月連続マイナス。

板類、9万3,352t、▲6.0%。14ヶ月連続でマイナス。押出類、6万3,740t、+0.7%。3ヶ月連続ぶりプラス。

## 【アルミニウム2次合金、同合金地金等生産実績】

前年比-3.6%、6万5,697 t、4か月連続マイナス。出荷は-3.1%、6万6,305 t。

## 【輸出】

アルミ新地金が前年比-33.3%の86 t。  
二次合金が+0.4%の1,459 t。  
スクラップが-8.2%の8,809t。  
アルミ缶が+21.5%の6,735 t。

## 【輸入】

アルミ新地金が前年比-17.8%の10万7,082t。  
二次合金が-11.4%の8万6,974t。  
スクラップが-5.6%の735t。  
合金スクラップが-25.9%の3,071t。

## 【見通し】

自動車は生産が+7%。国内販売台数が前年比-4.7%。生産は再びプラス。

生産はプラスだが販売はマイナス今後注視。

平成31年2月の住宅着工戸数は7万1,966戸で、前年同月比で4.2%増となった。また、季節調整済年率換算値では96.7万戸（前月比10.9%増）となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で3か月連続の増加となっており今後期待

アルミ圧延・押出品生産数は、板類・押出生産合計が前年比-3.4%、14か月連続マイナス。

板類は9万3,352t、▲6%、14ヶ月連続でマイナス。

押出類は6万3,740t、3か月振りプラス。

今後更にマイナスが続くかの動向に注視。

## 【アルミニウム2次合金、同合金地金等生産実績】

前年比-3.6%、6万5,697 t、4か月連続マイナス。

出荷は-3.1%、6万6,305 t。

今後マイナスが続くかの動向に注視。

アルミ輸出は、地金シフトの伴うスクラップ需要の低迷からスクラップ缶は減少。

アルミ輸入は国内製造業の生産停滞減少から減少。

## 【スクラップ景況予想】

流通在庫は大型10連休前のリスク売り利益確定売りが出てくるのではないかと

需要面に関しても安価の輸入塊がありスクラップの購入意欲薄いのではないかと

## 【LME・為替予想】

今月も米中貿易戦争の動向と英国の離脱問題の動向に左右される。

米中貿易に関しては米国でもPMIの製造業指数が1年9か月ぶりの水準に下げるなど景気後退の兆候が見られることやライトハイザー米通商代表部(USTR)代表とムニューシン米財務長官が訪中し、28日に米中の閣僚級協議が再開されたこと、IMFのラガルド専務理事が「世界経済は成長の勢いがさらに失われた」と述べ、来週公表する最新見通しで今年の成長率を従来の3.5%から下方修正することを示唆したことなどを受けて米中が歩み寄る可能性が出てくるのではないかと

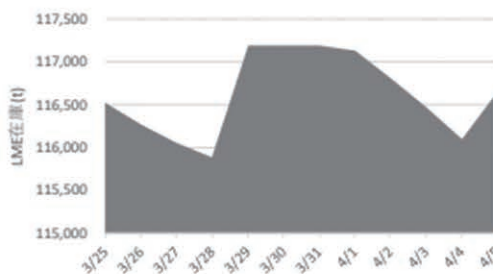
英国の離脱問題のに関しては、欧州連合(EU)に対し離脱交渉期限の延長を要請することを明らかにした。また、議会の膠着状態からの脱却に向け野党・労働党のコービン党首と協議する意向も示したことからこちらも一旦は先延ばしになったのでは？

これらを踏まえた2月のアルミ価格は1,800-2,000ドル。

スクラップ購入価格に関しては-5~0円程度と予測している。

## 【『3月のアルミ概況及び4月の見通し』おわり】

北米特殊



ニッケル

